

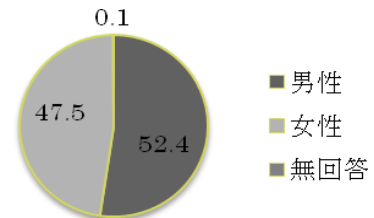
# 1. 回答者の個人属性

竹ノ下弘久（静岡大学人文学部）

## 問1 あなたの性別は

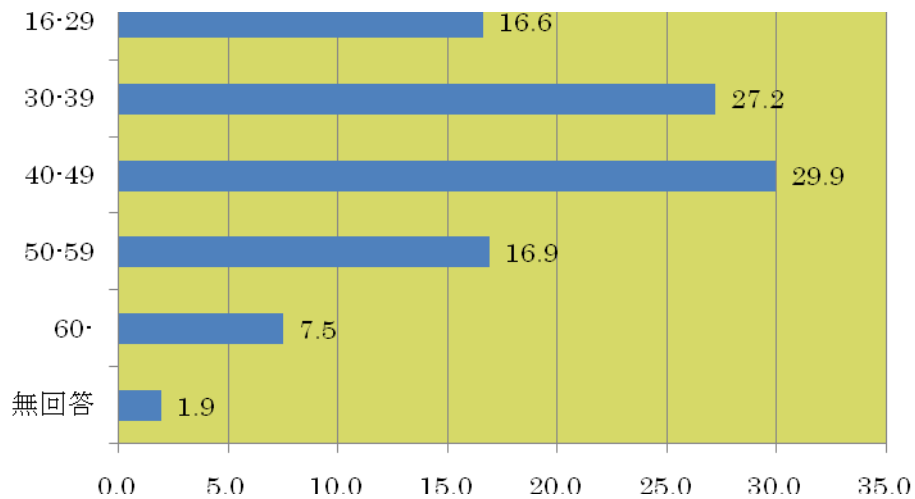
性別についてたずねると、男性が多く52%、女性は48%であった。

図 性別 (N=721)



## 問2 あなたの年齢は

図 年齢 (N=721)

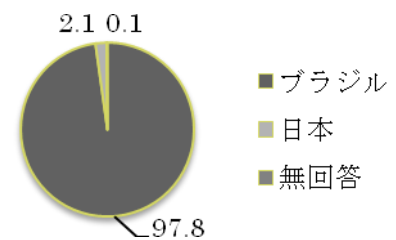


年齢については、40代がもっとも多く30%、ついで30代の27%であった。30代から40代という中年世代の回答者がもっとも多い。

## 問3 あなたの生まれた国は

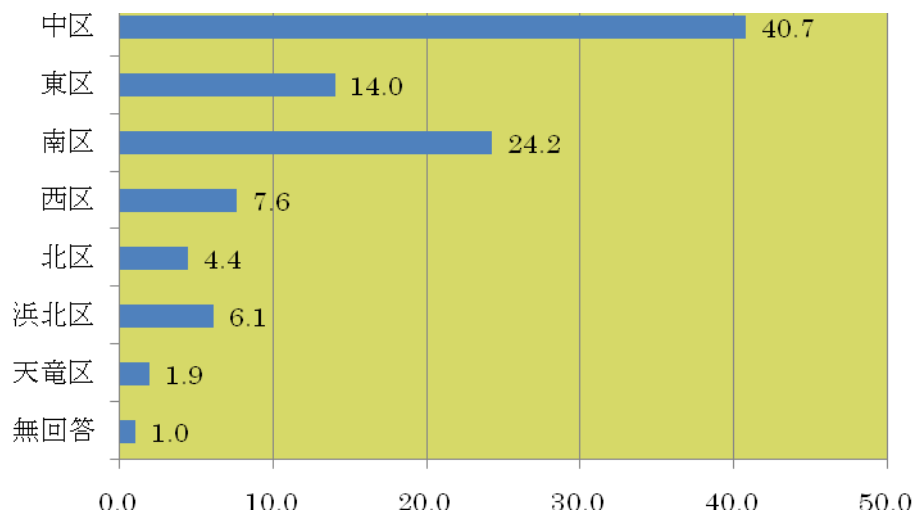
回答者の生まれた国についてたずねると、98%もの回答者がブラジルと回答し、日本という回答は、2%にすぎなかった。

図 生まれた国 (N=721)



#### 問4 あなたの居住地は

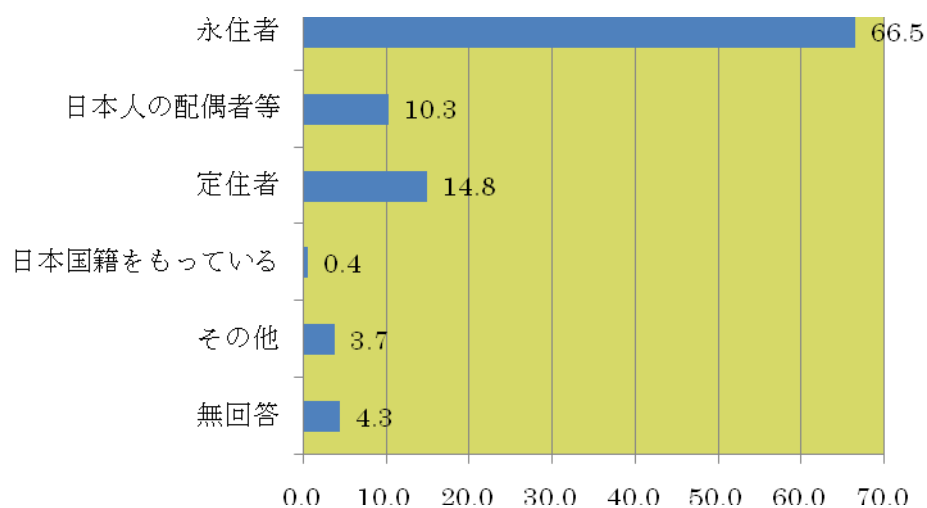
図 居住地 (N=721)



居住地についてたずねたところ、中区がもっとも多く全体の 41%をしめる。ついで南区が 24%、東区が 14%であった。その他の区については、全体の 1 割を下回り、天竜区では 1.9%にすぎない。

#### 問5 あなたの在留資格は

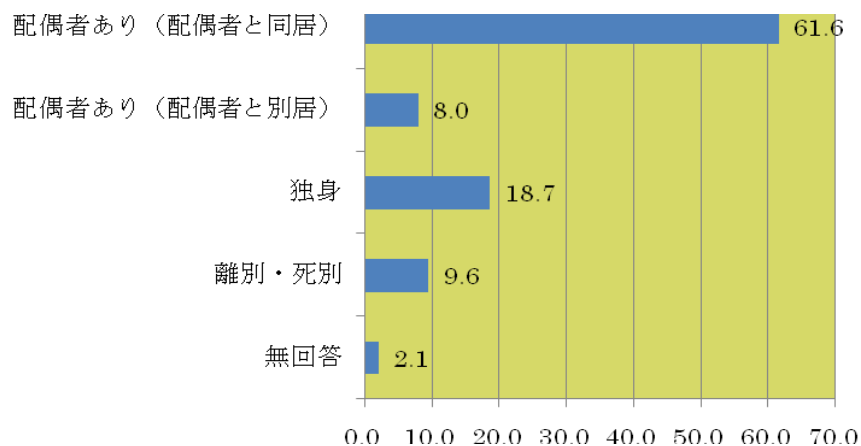
図 在留資格 (N=721)



在留資格についてたずねると、永住者がもっとも多く、67%と全体の 3 分の 2 をしめる。定住者が 15%、日本人の配偶者等が 10%であった。

## 問6 あなたの配偶状況は

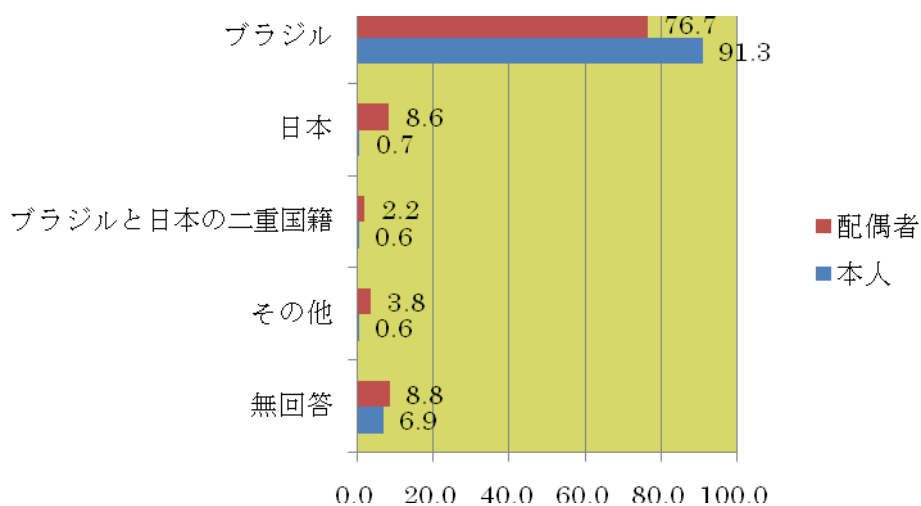
図 配偶状況について (N=721)



配偶状況については、配偶者がいるものが最も多く、全体の7割程度を占める。そのうち、配偶者と同居しているものが多数派であるが、別居しているものも、8%みられる。離死別については、9.6%であり、2008年に浜松市精神保健福祉センターが浜松市で日本人を対象に行った調査で離死別者は6.7%とあり、日本人よりもやや高い数値を示している。

## 問7 あなたと配偶者の国籍は

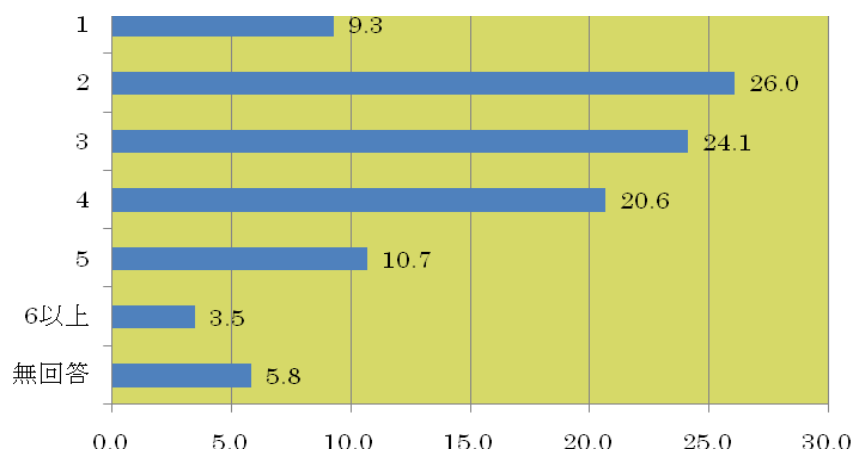
図 本人 (N=721) と配偶者 (N=503) の国籍



本人と配偶者の国籍についてたずねた。本人では、今回の調査対象者の抽出が外国人登録にもとづいているため、本人の国籍の大半はブラジルとなっている。他方で、配偶者がいるものについて配偶者の国籍をたずねると、配偶者もブラジルである比率は77%であり、配偶者が日本国籍をもつものについては、8.6%となっている。

### 問8 あなたの世帯に住んでいる人は、全部で何人ですか

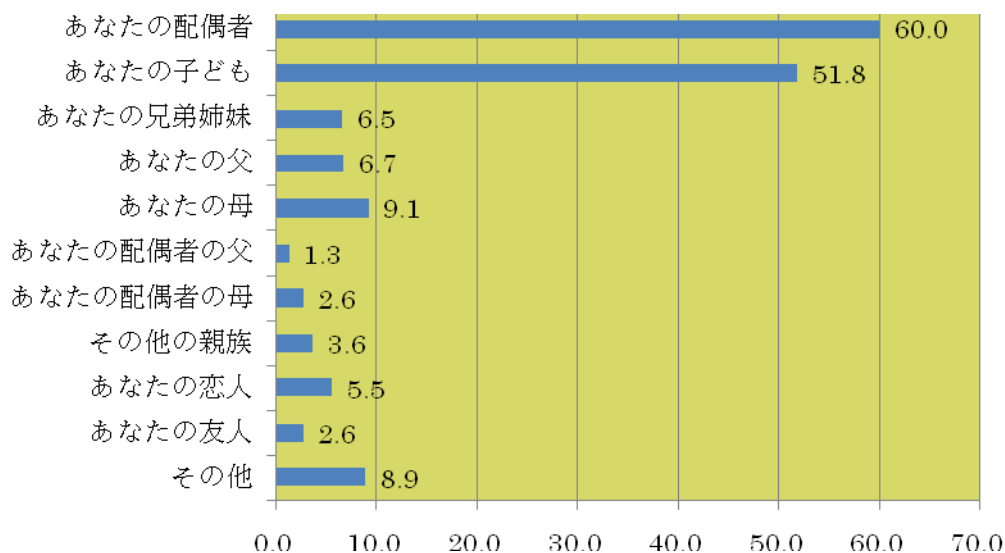
図 世帯人数 (N=721)



回答者を含めた世帯人数では、2人が26%、3人が24%、4人が21%であった。世帯人数が6人以上は3.5%であった。

### 問9 あなたと一緒に住んでいる人は

図 世帯構成 (N=721)



回答者の世帯構成では、配偶者や子どもの選択率が最も高く、それぞれ60%と52%であった。回答者の多くが、配偶者とその子どもからなる核家族世帯を構成していることが分かる。その他の親族との同居率はそれほど高くなく、回答者の父母との同居はそれぞれ6.7%と9.1%であり、配偶者の父母との同居率ではさらに低くなっている。

問10 あなたのお子さんについておうかがいします

子どもの有無についてたずねると、いるという回答が72%、いないが23%であった。

図 子どもの有無 (N=721)

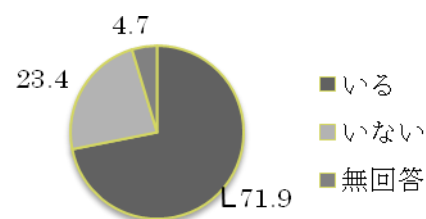
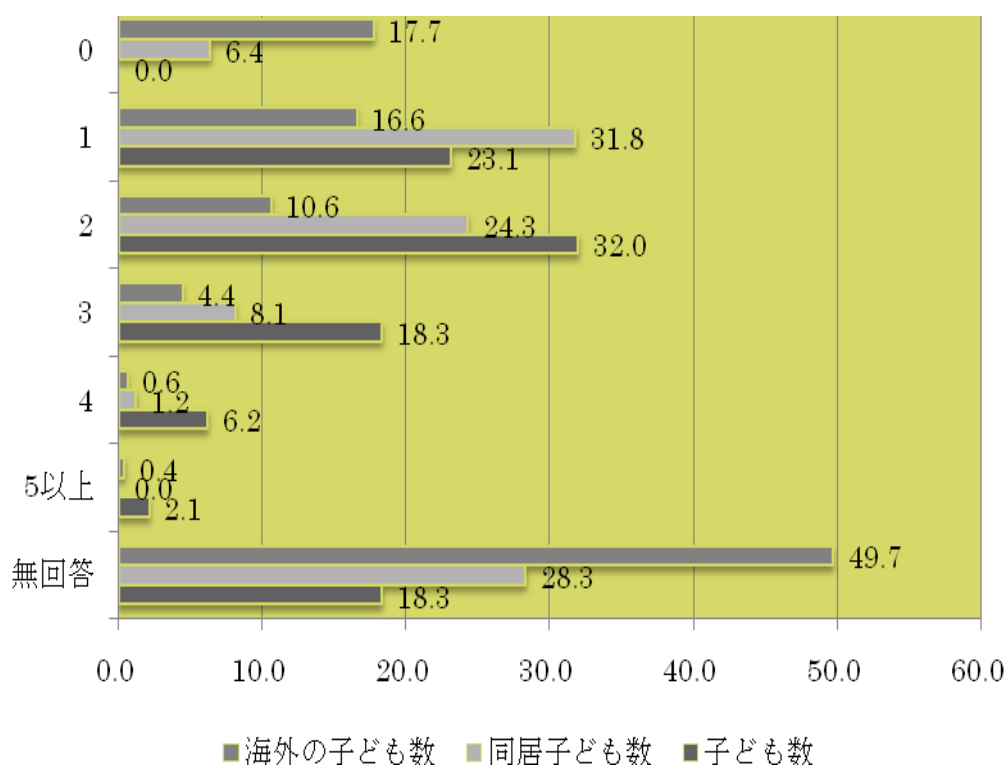


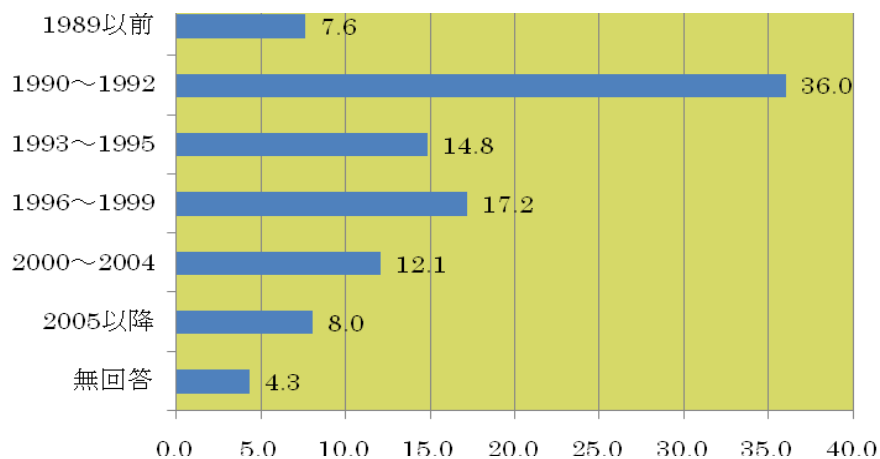
図 子ども数 (N=519)



つぎに、子どもがいる人については、子どもの人数についてたずね、あわせて同居している子ども数と、現在日本の国外で暮らす子ども数についてたずねた。全体の子ども数については、2人が最も多く32%、1人が23%、3人が18%と、回答者の子ども数の多くが、1から3人に集中している。同居子ども数では、1人が最も多く、次いで2人となった。日本の国外で暮らす子ども数については、いるという回答が、子どもがいる人の3割程度に及んでいる。

### 問 11 あなたが初めて日本に来た年は

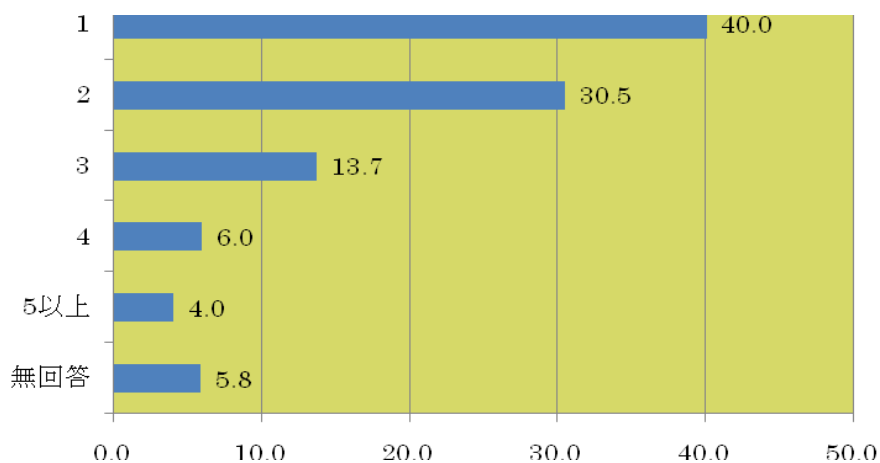
図 初来日年 (N=721)



初来日年では、1990年から92年にかけて来日したものが最も多く、36%であり、ついで、1996年から99年の17%、93年から95年にかけての15%となっている。2000年以降に来日したものは少なく、全体の2割程度である。

### 問 12 今回で通算何回目の来日ですか

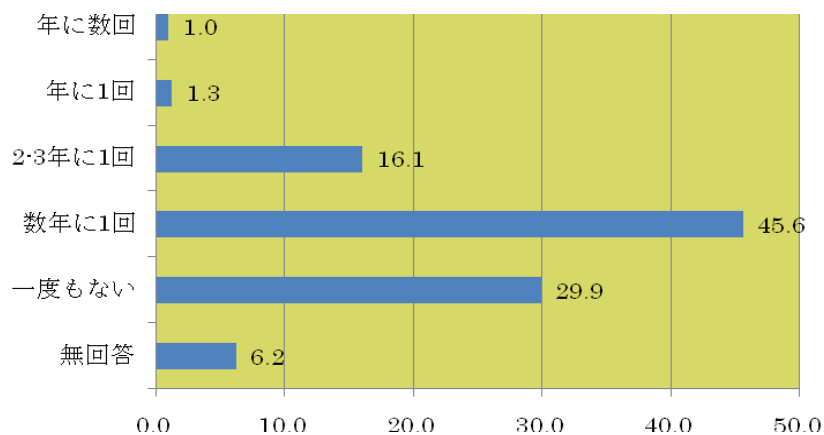
図 来日回数 (N=721)



これまでの来日回数について、今回も含めて回答してもらった。その結果、今回が初めての来日が、回答者の4割を占める一方で、回答者の半数以上が、これまでにブラジルと日本を行き来したことがあると回答する。2回目が次いで多く31%、3回目が14%である。4回以上という回答も、回答者の1割程度見られる。

### 問 13 クリスマスや一時的な帰国についておうかがいします。

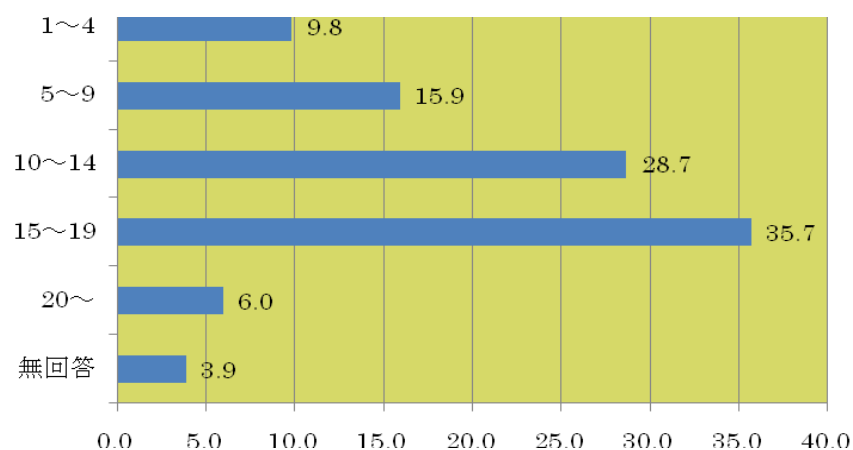
図 余暇のためのブラジルへの一時的な帰国の頻度 (N=721)



これまでの来日回数とは別に、余暇のためのブラジルへの一時的な帰国の頻度についてたずねた。年に数回や年に1回という、頻繁なブラジルへの訪問は、合計しても2%と非常に少ない。しかしながら、2-3年に1回では、16%と増加し、数年に一度になると、半数近くの回答者が、これまでも一時的な帰国を経験しているという。他方で一度もないという回答は、全体の3割程度見られた。

### 問 14 あなたの通算での日本滞在年数は

図 日本滞在年数 (N=721)

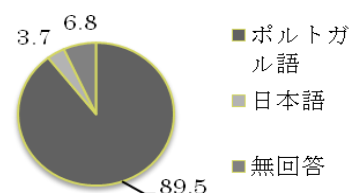


日本での通算の滞在年数をたずねると15~19年が最も多く36%であり、ついで10~14年の29%であった。1990年に入管法が改正され、日系人の自由な往来が認められてから、着実に滞在年数の長期化が進行していることが読み取れる。今回の調査対象者のほぼ6割が、日本での滞在が10年以上にもわたる、長期の滞在者であることがわかる。

問 15 あなたの母語または第一言語は

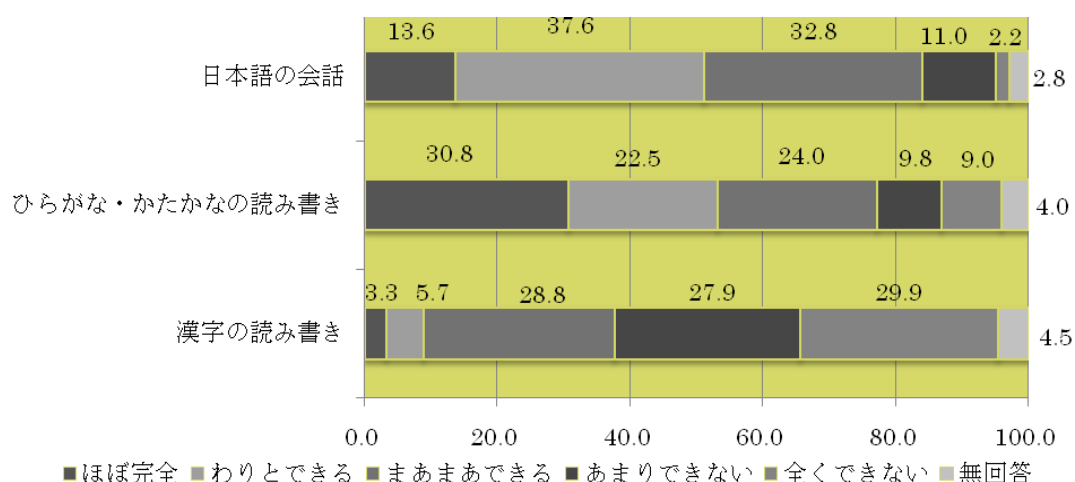
回答者の母語についてたずねると、回答者のほぼ9割が、ポルトガル語を母語としてしていると答えた。

図 回答者の母語 (N=721)



問 16-1 あなたは現在日本語がどの程度できますか。

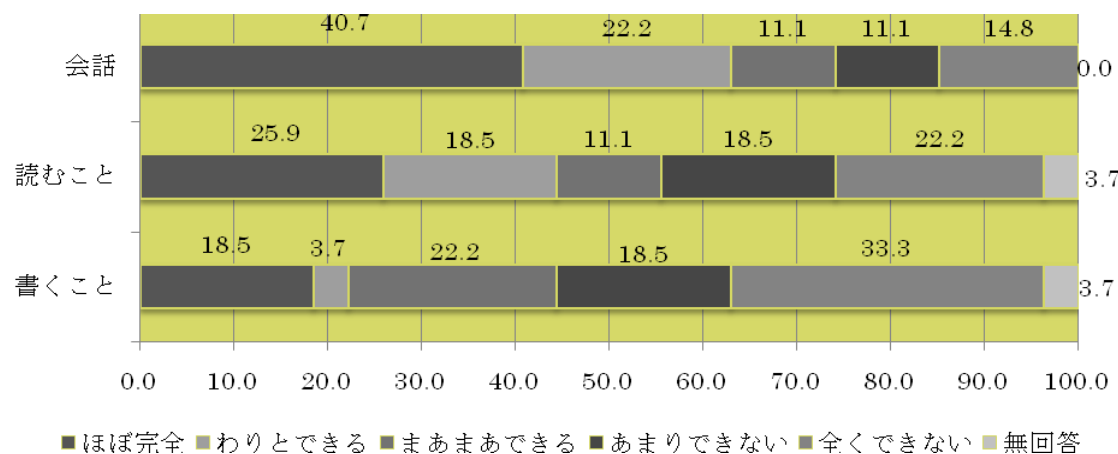
図 回答者の日本語能力 (N=646)



次に、回答者の母語がポルトガル語である人について、日本語能力についてたずねた。日常の会話、ひらがな・カタカナの読み書きについては、ほぼ完全にできる、わりとできるという回答が、両者を合計すると半数以上見られるのに対し、漢字の読み書きでは、できるという回答は、1割に満たない。

問 16-2 あなたは現在ポルトガル語がどの程度できますか。

図 回答者のポルトガル語能力 (N=27)

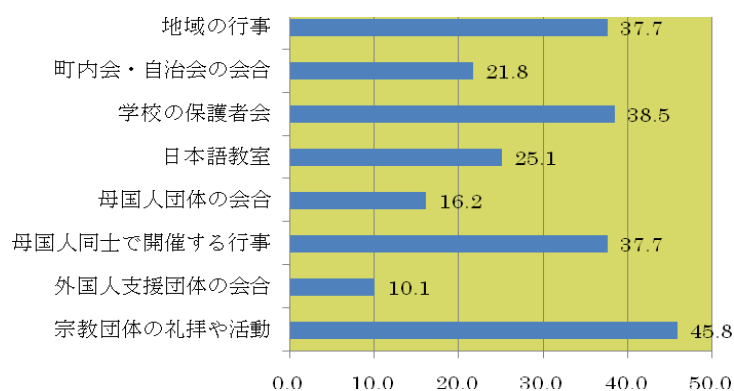




回答者の中で日本語を母語、または第一言語とする人たちについては、現在のポルトガル語能力についてたずねた。今回の調査対象者のうち、日本語を母語とする者は、722名のうち27名しかいないため、今回の調査結果は、暫定的なものにとらえなければならない。会話については、日本語を母語としていても、ほぼ完全にできる、またはできると答えるものが、両者を合計しても6割を超えている。そして、読むことについても、ほぼ完全にできる、わりとできるを合計して、4割を超えている。しかし、書くことについては、ほぼ完全にできるとわりとできるの合計は、2割程度にすぎない。

### 問17 以下の団体・活動に参加したことがありますか

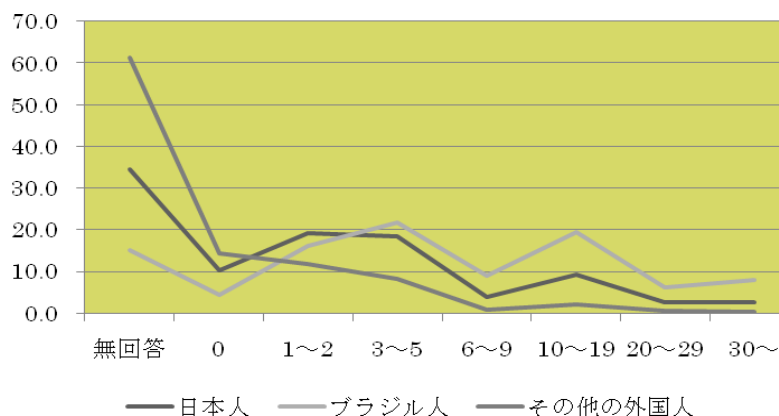
図 団体・活動への参加 (N=721)



団体・活動への参加についてたずねると、宗教団体の活動への参加が最も高く、半数近くが参加している。ついで多いのが、学校の保護者会、地域の行事、母国人同士で開催する行事であり、いずれも4割近くがこれらの団体や行事に参加している。

### 問18 近所に住む人のうち、あなたが日頃から頼りにし親しくしている人の人数は

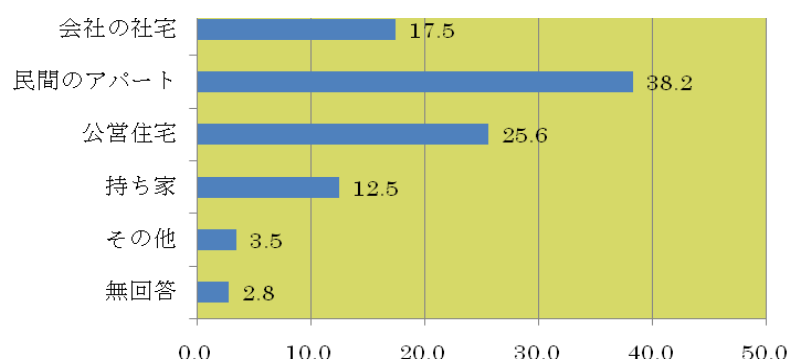
図 近隣のネットワークの規模 (国籍別) (N=721)



国籍・民族別の近隣で親しくしている人の人数についてたずねた。その結果、無回答率では、その他の外国人が6割と最も多く、次いで日本人の35%、ブラジル人の15%となっている。無回答を0とみなして、国籍別の親しい友人の数の平均値を求めると、ブラジル人が最も多く9.8人、ついで日本人の4.1人、その他の外国人が最も少なく1.1人であった。親しい友人では、ブラジル人が回答者の中で最も多い反面、回答の散らばり具合を表す標準偏差も、ブラジル人で最も多かった（ブラジル人の友人数の標準偏差は、21.3人であった）。ブラジル人の近隣における同国人ネットワークの規模は、個人によって大きく異なるといえる。

### 問19 あなたの現在のお住まいについておうかがいします。

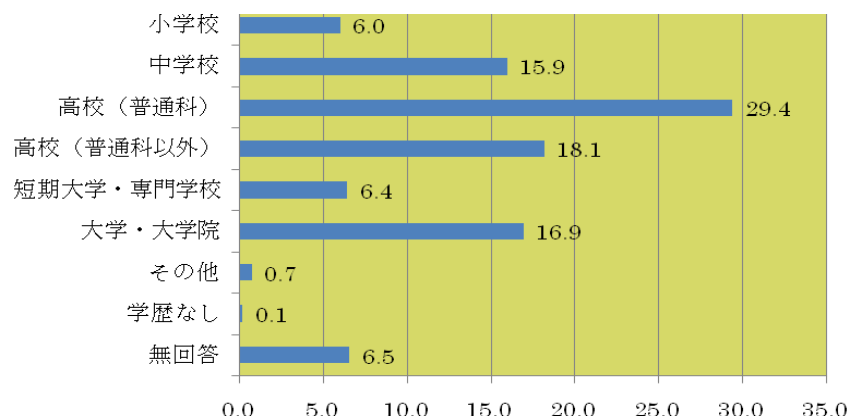
図 回答者の住居形態 (N=721)



回答者の住居形態についてたずねると、自分で契約した民間のアパートが最も多く38%、ついで、公営住宅の26%、会社の社宅が18%となっている。持ち家は少なく13%にとどまる。

### 問20 あなたが最後に卒業した学校を教えてください。

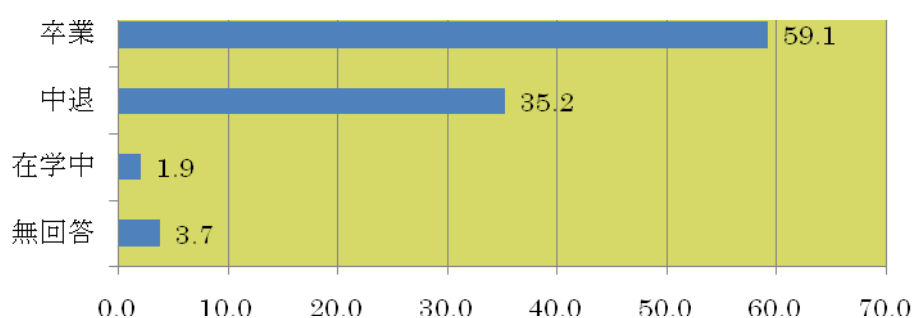
図 回答者の最終学歴 (N=721)



回答者の最終学歴については、普通科高校という回答が最も多く、3割近くをしめる。ついで、普通科以外の高校という回答が、18%である。短期大学以上の高等教育を回答する者は、23%と回答者の4分の1程度である。小学校や中学校という回答もみられ、学歴が初等教育水準にとどまるものは、全体の2割程度である。

### 問21 あなたはその学校を卒業しましたか

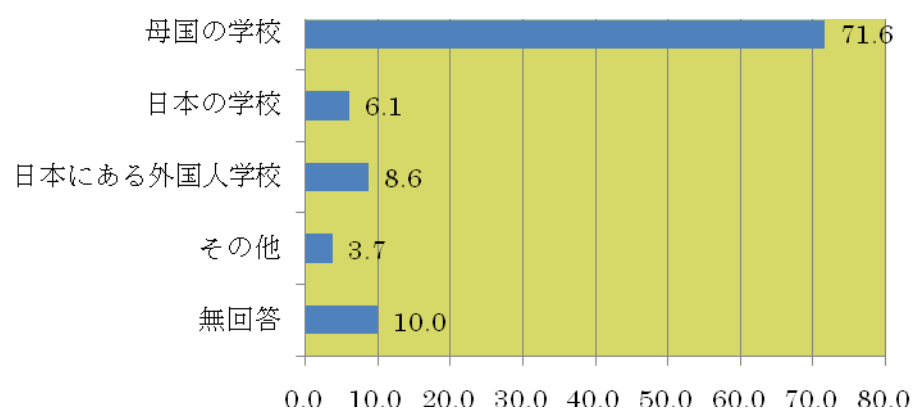
図 回答者の最終学校の卒業の有無 (N=721)



回答者の最終学校の卒業の有無では、卒業が6割近くと半数を超えているものの、中退率も35%と全体の3分の1を超えている。

### 問22 最後に卒業した学校は、以下のどれにあたりますか

図 最後に卒業した学校の種類 (N=721)



最後に卒業した学校の場所等についてたずねた。回答者の7割が、母国の学校で卒業と回答している一方で、日本の学校や日本にある外国人学校を卒業したという回答も15%みられる。日系ブラジル人の日本での本格的な就労と居住がはじまって20年が経過している。そんななか、日本で成長している第2世代が、少しずつ増加していることが理解できる。